

又、山形の生協共立社の方が言われた、「地域の問題をどうのりこえるのかを考える時、文化・教育協同こそが可能性をさぐれるのではないか」という発言も印象的でした。地域づくりの原点にもどって、地域を組織する縦横のネットワークを様々な協同組織の知恵と経験を生かして作り上げてゆく中でこそ、地域の教育力が回復されてゆくのではないかと思います。

高齢者協同組合が地域の中ではたす役割を具体的に考える時、出資の問題、組合員参加の問題、組合員のメリットの問題など分らないことは多いのですが、高齢者が共に安心して暮らすための「医・職・自由」を実現するために頑張れたらと思います。

日本の競争社会は、他人より一歩でもぬきん出ることを善とした価値観を生んできましたが、現状の社会を考える時、「自分だけよければいい」という感覚から「自分の子も、他人の子も生きられるのがいい」という感覚に変わって行かないと、豊かに生きるというのは無理だと思います。そのために「協同」の理念を地域に広げることはとても重要だと思います。

◇塩野 俊治（山形／小学校教員・生協共立社）

発想の転換、自分は頭の中では大きく転換してきたつもりだったが、今までのセクツ的主張で30数年生きてきたことを考えると、顔ぶれの転換でもあるかな……。

どの発表も若々しい素晴らしい発想で、21世紀がこの線ですむんだなあというものがかりです。

## 北海道南西沖地震被災地への 見舞金送金のお願ひ

1993年7月20日 日本労働者協同組合連合会  
理事長 内田 基大

周知の通り、去る7月12日夜半、北海道南西沖で発生した地震は、最大の被災地となった奥尻島をはじめ、広範な地域に大規模災害をもたらしました。

死者181名、行方不明者64名(19日現在)に及ぶ犠牲者のみならず、奥尻島の青苗地区では、火災と津波の被害で半数以上の世帯が家屋を失い、住民は避難先で不自由な生活を強いられています。

一夜にして家族を失った者、一家離散にあった者、生活の糧を得る漁船を失った者……。

わずか数分の地震と誰もが予想だにしない続けざまの津波によって、被災地は阿鼻叫喚の世界に変えられてしまいました。

当の奥尻島の奥尻建設厚生企業組合はじめ、対岸の檜山支庁管内には、今金、瀬棚、北檜山、大成、江差の各町に北海道建設企業共同組合連合会（日本労働者協同組合連合会に加盟）傘下の企業組合が点在しており、被害程度は異なれ、それぞれ地震の影響を被っています。

こうしたことから、被災地で不安な毎日を送る事業団の仲間に、「これからも気を落とさずに頑張ってもらいたい」という気持ちを込めて、支援見舞金を送金していただきますよう訴える次第です。

現地では、生活物資の不足をはじめとして、日常生活にさまざまな支障をきたしており、速やかな支援が望まれます。全团的な支援募金の取組み方法は、各事業団の検討に委ねますが、取りあえず、事業団としての募金を下記宛て送金いただきますようお願い申し上げます。(以下略)

### 【支援見舞金の振込先】

拓殖銀行 札幌支店 普通預金0689077  
口座名義 北海道企業組合連合会

※北海道企業組合連合会は団体会員でもあり、皆様のご協力をお願いいたします（編集部）。